

周術期等の口腔内管理の開発及び介入効果の検証

研究分担者 窪木 拓男 岡山大学歯学部長岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
研究協力者 曾我 賢彦 岡山大学病院准教授

研究要旨

周術期等の口腔内管理の開発及び介入効果の検証を目的に研究を行った。具体的には、消化器領域等の悪性腫瘍の手術を対象とした周術期の口腔内管理を予知性をもって効率的に進めるために、これら手術対象疾患の患者の口腔内の実態を明らかにすることとした。本院周術期管理センター受診食道癌患者を対象に、歯科疾患実態調査に準じて口腔内の実態を調査し、全国調査と比較した。さらに、食道がん患者の術後回復と経口栄養摂取との関連について、症例研究からその端緒を知ることを試みた。咬合支持を喪失していた食道がん術後患者に義歯等で咬合機能を回復させ、経口栄養摂取を可能とさせた症例について、体重の変化を治療前後で比較した。また、得られた知見について、広く発信することとした。昨年に引き続き、周術期管理医療等における歯科介入のあり方を議論するシンポジウムを開催した。

食道がん患者は全国調査結果と比較して、現在歯および処置歯が有意に少なく、喪失歯が有意に多かった。食道がんの危険因子である飲酒・喫煙等の生活習慣は歯周病の危険因子でもあり、危険因子を同一とすることが理由として考えられた。食道がん術後回復期で体重増加がみられなくなった時期に義歯が完成し、経口栄養摂取の促進が可能となった症例で、体重増加が咬合回復と時期を同じくして起こった症例があった。咬合回復が術後回復の促進につながる可能性を示唆した。開催したシンポジウムでは、全国の周術期口腔機能管理の実務者と情報発信するとともに、周術期等の口腔内管理の開発及び介入を推進し、その効果の検証をさらに進めるための議論を深めた。

A．研究目的

本分担研究者は岡山大学病院において周術期管理チームの中心メンバーとして、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学士などと集学的アプローチを行っている。

本分担研究の本年度の目的は、歯科介入型の新たな口腔管理法の開発及び介入効果の検証にあたり、1) 消化器領域等の悪性腫瘍の手術を対象とした周術期の口腔内管

理を予知性をもって効率的に進めるために、これら手術対象疾患の患者の口腔内の実態を明らかにし、2) 食道がん患者の術後回復と経口栄養摂取との関連について、症例研究からその端緒を知ることとした。また、3) 得られた知見について、広く発信することとしたとした。

B．研究方法

1) 消化器領域等の悪性腫瘍の手術を対象とした周術期の口腔内管理を予知性をもって効率的に進めるための、これら手術対象疾患の患者の口腔内の実態調査

本院周術期管理センター受診食道がん患者を対象に、歯科疾患実態調査に準じて口腔内の実態を調査し、全国調査と比較した。なお、実施に当たっては岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学倫理委員会の審査承認を受けて行った。

2) 食道がん患者の術後回復と経口栄養摂取との関連についての研究

咬合支持を喪失していた食道がん術後患者に義歯等で咬合機能を回復させ、経口栄養摂取を可能とさせた症例について、体重の変化を治療前後で比較した。研究の実施に当たっては患者からインフォームドコンセントを得た上で行った。

3) 周術期管理医療等における歯科介入のあり方の議論

「第2回 周術期等高度医療を支える歯科医療を具体的に考えるシンポジウム」と題し、臨床エビデンスに基づく歯科介入型の新たな口腔管理法の開発及び介入効果の検証等について、平成26年1月26日(日)に岡山市で企画した。

C．研究結果

1) 消化器領域等の悪性腫瘍の手術を対象とした周術期の口腔内管理を予知性をもって効率的に進めるための、これら手術対象疾患の患者の口腔内の実態調査

食道がん患者は全国調査結果と比較して、現在歯および処置歯が有意に少なく、喪失歯が有意に多かった。

2) 食道がん患者の術後回復と経口栄養摂取

との関連についての研究

食道がん術後回復期で体重増加がみられなくなった時期に義歯が完成し、経口栄養摂取の促進が可能となった症例で、体重増加が咬合回復と時期を同じくして起こった症例があった。咬合回復が術後回復の促進につながる可能性を示唆した。

3) 周術期管理医療等における歯科介入のあり方の議論

全国から聴講者を得て、周術期等の高度医療を支える歯科医療のあり方について議論した。また、この内容を広報するホームページを開設した(<http://hospitaldentistry.cc.okayama-u.ac.jp/2ndsympo/index.html>)。

D．考察

周術期等の口腔内の管理において、食道がん患者は全国調査結果と比較して、現在歯および処置歯が有意に少なく、喪失歯が有意に多かった。食道がんの危険因子である飲酒・喫煙等の生活習慣は歯周病の危険因子でもあり、危険因子を同一とすることが理由として考えられた。手術対象疾患によって歯科治療の要求度が異なることが考えられた。さらに、地域差も考慮に入れる必要があり、都市圏の昭和大学と共同研究を計画し、開始している。

体重増加が咬合回復と時期を同じくして起こった症例を経験し、歯科治療介入は手術後回復の促進に寄与する可能性を示唆したが、まだ症例観察研究の域であり、その評価にあたっては慎重である必要があり、今後さらなる研究を要する。アイヒナーの分類等を用いた咀嚼能力と術後回復(体重増加など)について、より多くの患者を対象とした研究を計画している。

昨年度に引き続き岡山で開催した周術期管理医療等における歯科介入のあり方の議論を目的としたシンポジウムは、全国から参加者が集い活発なディスカッションが展開された。このような科学研究費事業にふさわしいと思われ、引き続き来年度も開催を計画する。

E . 結論

主に食道がん患者を対象として周術期等の口腔内管理の開発及び介入効果の検証を試みた。食道がん患者の口腔内環境は歯科治療を要するケースが多く、また歯科治療介入は手術後回復の促進に寄与する可能性を示唆した。シンポジウムを開催し、全国の周術期口腔機能管理の実務者と情報発信するとともに、周術期等の口腔内管理の開発及び介入を推進し、その効果の検証をさらに進めるための議論を深めた。

F . 健康危険情報

分担研究であり該当する記載はない。

G . 研究発表

1 . 論文発表

< 論文発表 >

- 1) 曾我賢彦：もし、周術期口腔機能管理の依頼があったら？ 周術期医療に歯科の専門性はどうか？ 日本歯科評論，73(5)： 154-157,2013.
- 2) Soga Y, Maeda Y, Tanimoto M, Ebinuma T, Maeda H, Takashiba S:Antibiotic sensitivity of bacteria on the oral mucosa after hematopoietic cell

transplantation.Support Care Cancer. 21(2):367-368,

doi: 10.1007/s00520-012-1602-9, 2013.

- 3) Yamanaka R, Soga Y,Minakuchi M,Nawachi K,Maruyama T,Kuboki T, Morita M: Occlusion and weight change in a patient after esophagectomy: success derived from restoration of occlusal support.Int J Prosthodont.26(6):574-576, doi: 10.11607/ijp.3622, 2013.

< 学会発表 >

- 1) 山中玲子, 守屋佳恵, 曾我賢彦, 縄稚久美子, 佐藤健治, 佐藤真千子, 伊藤真理, 足羽孝子, 森田 学, 森田 潔：マウスプロテクターの形態を工夫し臼歯部の咬合を挙上することによって舌のさらなる咬傷を防止した一症例.第40回日本集中治療医学会学術集会, 2013年2月28日, 松本
- 2) 曾我賢彦:周術期の口腔機能管理 周術期の口腔機能管理の意義と実際(シンポジウム).第24回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 2013年6月6日, 大阪
- 3) 佐藤公磨, 河村麻里, 吉原千暁, 峯柴淳二, 山本直史, 高柴正悟, 曾我賢彦：生体腎移植患者の周術期口腔感染管理を病棟連携にて行った1例.第38回尾三因医学会, 2013年6月24日, 尾道
- 4) 山中玲子, 曾我賢彦, 吉富愛子, 白井 肇, 鈴木康司, 河野隆幸, 鳥井康弘, 森田 学：周術期管理チーム医療研修が研修歯科医に与えた影響.第32回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2013年7月13日, 札幌
- 5) 杉浦裕子, 曾我賢彦, 高坂由紀奈, 志茂加代子, 三浦留美, 西本仁美, 西森久和, 田端雅弘：某大学病院の外来通院がん治療患者における口腔管理の実態と今後の課題に

ついて.日本歯科衛生学会第8回学術大会,
2013年9月15日,神戸

- 6) 山中玲子,曾我賢彦,前田直見,大原利章,
田辺俊介,野間和広,白川靖博,森田 学,
佐藤健治,森松博史,藤原俊義:食道癌患
者のより良い周術期医療のために歯科はど
のような貢献ができるのか?~周術期管理
センター(PERIO)歯科部門の取り組み~:
第75回日本臨床外科学会総会,2013年11月
21日,名古屋
- 7) 曾我賢彦.医療関係の場を利用した医療人
育成を目的とする歯学教育の推進:第2回
周術期等の高度医療を支える歯科医療を具
体的に考えるシンポジウム,2014年1月16
日,岡山

H. 知的財産権の出願・登録状

(予定を含む。)

該当なし。